

キャベツ根こぶ病の発生を抑制するためpH7.0にする土壌管理および作物の生育

キャベツ根こぶ病の発生を抑制するため土壌pH7.0に矯正した土壌環境は作物の収量に影響しない

背景・目的

- ・キャベツ根こぶ病は、その休眠胞子が土壌中に10年以上と長期間生存する土壌病害
- ・転炉スラグによる土壌pH7.0への酸度矯正は、報告されている発病抑制対策の一つ
- ・本県のキャベツ主要産地に分布する礫土と腐植質黒ボク土でpH7.0を目標に酸度矯正するための中和石灰量の目安が必要
- ・pH7.0に矯正した土壌環境がキャベツや青果用サツマイモの収量に及ぼす影響の確認が必要

成果の内容

・キャベツ主要産地の土壌（礫土、黒ボク土）ごとにpH7.0に矯正する中和石灰量を算出

・pH7.0に酸度矯正した圃場の栽培は、生育・収量に影響はない



内部褐変等、生理障害のない青果用サツマイモ、キャベツの断面

導入メリット

表 土壌pH毎のpH7.0に矯正する石灰質資材施用の目安量(kg/10a)

土壌pH	礫土		黒ボク土	
	消石灰	ケイ鉄	消石灰	ケイ鉄
5.3	390	9,200	—	—
5.5	350	8,800	—	—
5.6	340	8,600	840	13,400
6.0	270	7,600	670	11,400
6.5	160	5,000	380	8,400
7.0	0	0	0	0

注) 矯正前土壌pH: 礫土は5.3, 黒ボク土は5.6
 仮比重: 礫土は1.00, 黒ボク土は0.75, 作土深10cmで試算
 中和石灰量は緩衝曲線から算出

・根こぶ病の発病を抑制

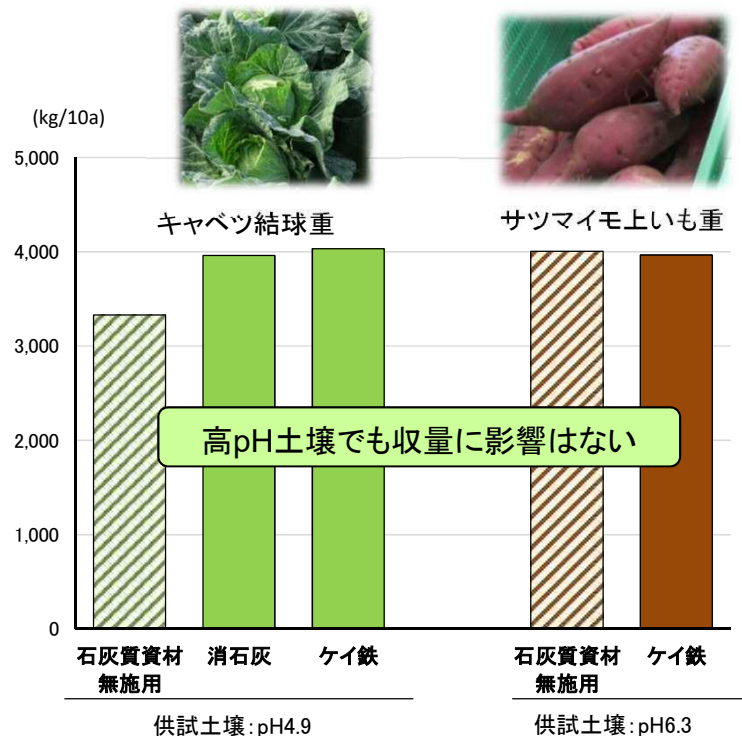


図 礫土壌のpHを7~8程度に酸度矯正した圃場におけるキャベツ結球重と青果用サツマイモの上いも重

期待される効果

キャベツ、サツマイモ産地の安定生産

普及対象・範囲 県内キャベツ栽培産地

鹿児島県農業開発総合センター生産環境部土壌環境研究室

・キャベツ-サツマイモ輪作の安定生産